

加茂まちづくり協議会と市長との意見交換会

【日時】

令和5年9月13日(水) 19:00~20:45

【場所】

加茂交流センター

【参加者数】

15人

■意見交換会

ご意見) 加茂町は県河川が多い。勾配が非常にゆるく土砂が堆積しやすい。町内どこでもそのような状況。県の河川浄化事業で対応してもらっていたが、頻度が少なく1河川で数年かかる状況。地域でのボランティア対応も高齢化しており限界が来ている。地域の環境は自分達で守りたい思いはある。町全域で取り組むためには支援がないとできない。

市長) 河川の土砂の撤去について、斐伊川は国が、支川は県が、小規模河川は市が管理している。県により赤川は今年も何か所かやっている。伐採も県へ要望している。本来県が管理すべき河川を市が行っている事業が河川浄化事業。市と協力して行う事業だが、草刈りに関しては地元で対応しづらくなっているため、この事業の今後については県と協議していきたい。

ご意見) 河川浄化事業が始まったのは加茂町だと思う。県がやるべきことは県がやるのが本来の姿だ。

市道の管理がずさんに感じる。以前はもっと綿密に管理されていた。センターライン・路面凹凸など所管は警察か公安か市かわからないが、私の地域では市道へ木が垂れていて、枝が落下することもある。私有地と危険な箇所など市道の管理を徹底してほしい。

市長) 市道の管理十分でないこと承知している。修繕箇所を連絡いただいで対応している状況。本来は市が点検すべきとは思っているが市道延長がとても長い。多くの要望をもらい対応している。伐採については三刀屋町の明石緑が丘公園へ通じる市道で実施した。道路管理者の伐採範囲は道路上にはみ出ているところのみ。本来は地域と一緒に地権者と話をしながら行うと効果的。

ご意見) 飛び出た枝で何か被害があれば、責任は地権者なのか？

市長) 道路管理空間内なら道路管理者である。

ご意見) 猪が入り田んぼが全滅しているところがある。電牧や狩猟免許の補助は手厚いがもう少し拡充してほしい。ヌートリアが出たりもした。
また、竹林対策も必要。竹をパウダーにする機械を貸与して土壌改良に利用しているところもあった。竹の有効活用を進めてほしい

市長) 有害鳥獣については駆除・防除・環境整備がある。今年、地域おこし協力隊で2名

を専門官として採用した。今年取り組んでいるのは、檻にカメラをつけ現地へ見に行かなくても監視できるよう取り組んでいる。サル対策も進めており少しずつでも進めたい。山との緩衝帯を作るなど地域全体をエリアで囲むなどの対策を検討している。

竹については、竹炭にして土壌改良をすることを研究しており、有効活用につなげたい。

ご意見）自死対策について。心の病は自分から発信することが難しい。雲南市は自死対策について先進的であるが、もう一歩前に進めてほしい。子どもの不登校対策にもつながり率先して心の病気を和らげる地域になってほしい。

市長）コロナ禍での外出自粛が不登校や引きこもりなどに影響している部分もある。重要な問題だと思っている。保健所で心の相談をしており県と連携していきたい。また、妊娠出産の産前産後のケアを手厚くした。保健師がおむつをもって訪問や産後ケアの無料券を渡している。対象によってアプローチを変えており、雲南市の自死の多さは課題だと思っている。

ご意見）息子の妻は松江市出身だが、雲南市役所の妊娠後の職員対応がいいとのこと。支援センターの職員も利用者一人一人に「お母さんゆっくり休んでね」と言ってくれるのがいいと言っている。

先日、地元新聞に若い方が草刈りの問題を載せていた。ボランティアでやっても体が続かないとの内容。自分の近所でも女性しかいない家が多い。草刈りやイノシシ対策ばかりでは若い人は住みたくなくなる。猪にぶつかりそうになったことが何度もある。「なんでもすぐやる課」のようなものは雲南市にはないのか。変わった名前をつければ注目を集められる。まず、相談するところが欲しい。

市長）職員の対応について、評価いただいた部分はさらに伸ばしていきたい。

草刈りについて難しい課題だが、住む際に草刈りが苦になる方は定住しにくい。新規採用職員に草刈りの経験を聞いたが、ほとんどやったことがない。やってみると楽しいということもある。適材適所も含めて地域を維持していきたい。

「なんでもすぐやる課」は松本清市長（マツモトキヨシ創業者。千葉県松戸市長時代に市長直属の「すぐやる課」を設置）が始めたものだと思う。「縦割り行政」という都市部によくある状況で作らざるを得ない背景があったと思う。雲南市では、特に福祉系の部署は横の連携をとり、どこに相談しても庁内で情報共有し、全庁ですぐやるという意識を持って取り組んでいる。総合相談窓口を設置しなくてもまず職員に相談頂ければ適切などころにつなぐ。

一方で、ユニークな名前の課はPRという意味では有効と思っている。

ご意見）待遇に関して良いと自分も感じる。更にレベルアップするために提案。新人職員に世間を経験してほしい。9月議会でも議員質問があった。県から農林土木関係の職員を業者での3日間の現場体験を受け入れてほしいと要望があった。業者がどのような仕事を現場で行っているか分かる研修をとのこと。一般業者へ職員派遣すれば待遇も向上するのは。

市 長) 短期間の研修という形で受け入れてもらうことは可能。1年などの長期研修は難しいが職員研修は重要なので受け入れ側の負担も併せ有効な研修となるよう検討したい。

ご意見) 小中一貫学園化構想について。以前市教委より学園の名称を考えてほしいと依頼があり、その後作業部会を作って決めたいと方針転換された。加茂町は小学校、中学校1校であるので一貫校についてできることから取り組めばいいのではないかと。

市 長) 小中一貫校と義務教育学校は別のものであることを理解いただきたい。小中一貫校は授業等の内容を合わせ協力していくやり方。加茂町は議論が進みやすい校区であると思っており小中連携できる内容は進めればよいと考える。ご協力いただきたい。

ご意見) 加茂岩倉遺跡へ行く途中に火薬庫がある。よってガイダンスセンターの修繕の県認可が下りない。加茂岩倉遺跡は後世へ残したいと思っており、火薬庫の横を観光客が通るのを早く解消したい。業者との協議も止まっている。加茂町としては銅鐸を活かしたまちづくりをやっていききたい。

市 長) 火薬庫の件は承知している。民地における行為について行政ができることは限られている。火薬庫の新規設置は非常に難しい。業者に理解をいただくしかない。

ご意見) 国宝の出土地が活かされない現状は憂慮しており、解決に向け具体検討してほしい。市長就任から3年が経過しその間に大きな災害が発生し労力・予算を費やしている。災害対応により、将来雲南市をどうしたいのかというビジョンが市民に伝わっていないのではないかと。より具体的ものを発信されると市民理解がすすむ。市民へ詳細に伝われば、市民からの協力も得やすいと考える。

市 長) 災害対応により市職員のマンパワーが削がれ、大きく施策を推進することができなかった。道の駅・公共施設・公園など今あるものを活かして魅力を出していきたい。地域おこし協力隊、今年だけで4人確保した。加茂町は住宅政策が有効であり、同時にソフト面も充実させたい。基本的には、従来の良さを活かしていきたい。体育館等の耐震診断・災害・海潮中学校統合・木次線存続など課題は多い。一方で物流の2024年問題に対して、ドローンを活用した取り組みを始めている。また、雲南のよさを認知してもらい、地域の価値を上げる取り組みも行っており引き続き取り組んでいきたい。

ご意見) 石飛カラーを市民に示し新たなことにどんどんチャレンジしてほしい。加茂町は住宅地として大雨さえ降らなければ良い地域である。住宅団地を造成すれば、すぐ売れる。市内に団地を点在させるより需要のある加茂町に整備するのが有効でないか。

市 長) 大東町・木次町にも必要だが、加茂町の立地メリットは非常に大きい。金丸団地の奥側の造成計画を土地開発公社と共に検討している。そのためには河川改修が必要。住宅施策は造成と既存のストック(空き家)をいかに活かすかの2点で進めている。

ご意見) 松江道の三刀屋木次から央道までの有料区間について、加茂スマートインターチェンジの竣工により交通量は増えたのか？

市長) 計画よりも上回っているとのこと。予想以上にスマートインターを利用いただいている。企業誘致も進めたい。

ご意見) 企業誘致にこだわらず様々な用途を考えてはと意見したが、現在も進めているのか。

市長) 2期、3期と契約を進めている。今年も分譲が始まる場所である。

ご意見) 加茂小学校のプール撤去については、予定通り実施されることを期待する。

市長) 来年度実施する。

ご意見) 2030年の国民スポーツ大会について。雲南市はレスリング・ボートの会場になるとのこと。加茂町でソフトボールの練習場の予定や施設整備の計画などはあるか。野球場などの整備をすればよいと思う。

市長) レスリングはアスパル。ボートはさくらおろち湖ダムが会場。ソフトボール協会とも相談し検討を進めている状況である。

ご意見) 合併以後加茂町に対しての施策は後手に回ることが多く「合併しなければよかった」という意見を聞く。合併特例債が終了すると、より加茂町は取り残されるのではないかとと思う。加茂町の施策に力を入れて頂きたい。

市長) 6町村それぞれの特徴に合わせながら、課題解決を進めないといけないと考えている。加茂は住宅施策を優先的に考えている。

ご意見) 会議の女性の割合を上げてほしい。

市長) 女性の割合4割の目標を達成したい。少しずつ改善していきたい。現在次期雲南市総合計画を策定しているが委員選定の際に様々な世代、立場が必要と考え、団体推薦ではあらゆる世代となるよう配慮した。それぞれの議論の中で構成を決めていくべきと考える。

ご意見) 地域自主組織連絡協議会で後継者がいないという議論があるが、地域自主組織等において若い世代が関わる機会がないだけ、関わる仕掛けづくりに取り組む必要がある。

市長) 先日健康の森でキャンプフェスをやっていた。商工会の青年部で企画された。そういう元気が生まれてきていると思う。昔の青年団のような活動ができないかと思っている。結婚対策も含め若い世代の活躍の場を考えていきたい。

ご意見) 神原企業団地の誘致状況は何社進出しているのか。また三刀屋町のビジネスホテル建設の状況は。

市長) 神原企業団地は現在1社進出している。これから分譲開始する土地については誘致

に引き続き努力する。南加茂団地の丸八ポンプは拡張工事中で来年の夏操業開始予定。複数社協議を進めている状況。

ビジネスホテルは施工業者が決定し、杭打ちのくいを製作中である。来年中にはオープン
の予定。工程の見直して遅れているが粛々と進んでいる段階。

ご意見）神原企業団地は現在1社のみ。新聞等によると他自治体ではかなり企業進出が進んでいるようだ。PRや企業進出に繋がる施策を頑張してほしい。

市 長）造成工事が終わらないと販売価格が出せない。造成費用を抑える検討をしている。企業進出の結果を出せるよう頑張っていきたい。

ご意見）本日、雲南市立病院の大谷事業管理者が加茂交流センターに来所された。厚労省のDPC計画により来年4月から診療体制が変わることについて地域自主組織へ説明に来られた。来年度から実施との事で学習会を計画した。市立病院から来て説明してもらう。また、加茂では最近個人病院の廃業があり診療に不安を持っている住民の声を聞く。このような場合、市も関わりバックアップできないか。雲南市立病院に行って尋ねることは難しい。市民が相談を受けられる体制であってほしい。大谷事業管理者からは特定検診の受診率が低く、判定が悪かった方へのフォローがないため医療費がかかり国保が高くなるという話もあった。コロナ禍で保健師さんとのつながりがなくなっており、コロナ禍前の体制に戻し保健師が長く地元と繋がる体制を作してほしい。

市 長）診療報酬は出来高方式だが、DPC制度を導入すると病気の診断で値段が決まる。これまでは様々な薬が処方できたのが制限され、患者の方には少し冷たい印象を持たれるのを危惧する。医療の質は担保できるので理解を得ないといけない。制度を上手く使いながらご理解をいただくこととなる。手術が終わったらすぐ退院ということはないと考える。この地域は特に医師が不足している地域。松江市でも新規開業はない。新規開業は非常にハードルが高く、医師の高齢化が進んでいるのは問題。ご心配の内容は地域包括ケアシステムのようなイメージで連携し体制を構築したい。

透析の件についても、平成記念病院と雲南市立病院で対応できるよう体制をとった。特定検診は男性の受診率が低い。このことは重症化予防対策を進めるうえで国保だけでなく、社保においても課題である。市としてもより対策が必要となるので、保健師等の集団でフォローができるような体制づくりをしていきたい

ご意見）三代地域の不燃物処理場建設の話はなくなったのか。

市 長）新たな処理場については三代地域に限定せずに選定をしているので、随時説明をしていきたい。

ご意見）三代地域の処理場建設については一度地元と話をした以上、その結果についてフィードバックは必要だと思う。

20:45 終了